

李英蘭『「主題-解説」構造から見た韓国語-n kes-ita と日本語ノダ』（ひつじ書房、2018年）

*本の概要

本書は、「主題-解説」構造の観点から韓国語の-n kes-ita（以下、kes-ita と表記）文を考察することで、これまで明確ではなかった kes-ita の基本的機能を明らかにし、kes-ita 文の全体像を示すことを第一の目的とする。そして、本書で考察する kes-ita 文を日本語のノダ文と対照考察することで、両形式の根本的な違いを明確にすることが第二の目的である。本書で、「主題-解説」構造という理論的枠組みを導入し、kes-ita 文を分析した結果、kes-ita 文は、統語構造の違いによって、①名詞文、②疑似名詞文、③非名詞文という3つに分けられた。名詞文としての kes-ita 文と疑似名詞文としての kes-ita 文は、統語的には別の形式のように見えるが、「主題-解説」構造の観点からは、いずれも「主題について何かを述べている」と解釈されるという点で両者は意味的に密接に関連していることが明らかになった。また、非名詞文としての kes-ita 文は、「後続発話への関連を示唆する」ものとして解釈され、一見、名詞文や疑似名詞文としての kes-ita 文の意味とは異質なものに見えるが、kes-ita 文はいずれも「kes-ita 文の意味解釈には kes-ita で表される部分以外に、もう一つの情報が必要であることを示す」という kes-ita の基本的な機能が働いているという点で、「名詞文」「疑似名詞文」「非名詞文」といった統語構造の異なる全ての kes-ita 文に対し統一的な説明が可能となり、kes-ita 文の意味解釈のプロセスの全体像が提示できた。最後に本書では、kes-ita 本来の意味・機能についての考察結果を日本語のノダと比較し、kes-ita がノダに比べモーダルな形式として発達していないという従来の指摘について、両形式の根本的な違いは kes-ita 文の「主題-解説」構造に起因しているということを提示した。

*著者略歴

1971年韓国生まれ。1994年三育大学英語英文学科卒業。2009年東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。2016年東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。現在、東京大学大学院総合文化研究科学術研究員及び東京大学・白百合女子大学等非常勤講師。主な業績は「韓国語の「-n kes-ita」文について：「主題-解説」構造の観点から」（『言語情報科学』11号、2013年）、「現代韓国語の「-n kes-ita」文の使用条件と文法化について：日本語の「ノダ」文との比較を中心に」（『韓国語学年報』9号、2013年）、「現代韓国語の「다가(taka)」のイメージ・スキーマと意味拡張」（『韓国語学年報』13号、2017年）など。

[関連 URL] <http://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-910-6.htm>